

「夫たちよ、妻の話を聞こう」

著者：上沼 昌雄

- ・対象：結婚している男性・女性
- ・方法：夫婦を対象とした、または男性だけのグループ読書会に
- ・回数：各章を2～3回に分け、計6～9回

1. この本を読むにあたって

著者：上沼 昌雄

聖書神学舎やシカゴ・ルーテル神学校などを卒業し、神学博士号。
現在、カリフォルニアに在住。

「聖書と神学のミニストリー」代表として、プロミス・キーパーズの理念に基づいた男性集会や夫婦セミナーなどの講師として活躍中。

出版社：いのちのことば社

出版年：2003年

本の要点：

この本は、著者のセミナー等の経験を通して、主に男性の視点から、男性の霊的な深まりを目的として書かれました。その焦点となることは、結婚している男性が妻の話をじっくりと聞くことを通して深められる霊性の深まりです。著者は、「妻の話をじっくりと聞く」ということが、パウロの命じた夫がキリストのように妻を愛する、十字架の愛の実践として、位置付けています。著者のバックグラウンドとしてあるのは、プロミス・キーパーの理念です。

※プロミス・キーパーについては、「プロミス・キーパーズ・・・7つの約束」
(いのちのことば社) 参照

本の内容：

この本は、3つの章から成り立っており、「はじめに」には、この書のバック・ボーンとなる、著者とプロミス・キーパーの集会での体験が書かれています。

(1) 第1章 男性として

男性として受ける5つの誘惑が説明されています。

それは、

- ① お金のこと (お金に振り回されること)

- ② 性的誘惑のこと（性の両面・・・誘惑としての側面と夫婦がより親密になっていく面。この項目では特に前者の側面）
- ③ プライドのこと（自分の罪や非を見えなくする）
- ④ コントロールのこと（相手の自由を認めず、自分の思うままにしたいと願う）
- ⑤ 父親のこと（父親から受けた傷）

この章の後半では、失敗や罪を犯した体験を集会で素直に言い表すことにより、神のみ前に赦され、回復される恵みに関して、体験談が収録されています。

(2) 第2章 夫として

エペソ書5章25節を中心に、特にキリスト者の夫として、妻をキリストのように愛するとは、具体的にどういうことであるのかが、述べられています。特に、著者の男性集会で、共通のテーマとして浮かび上がってきたのが、「妻の話を聞く」ということでした。

著者は、キリストのように妻を愛する、ということが、具体的に「妻の話をじっくり聞く」と言うことの中に実践されていくことを説いています。そのことを通して、霊的に深められることが解き明かされます。

(3) 第3章 さらに夫として

この章では、妻の話を聞くことが、神との関係と対比され、妻の心に向き合うことが、いかにして、キリストの愛の実践に深められていくのかが、より具体的に解き明かされてゆきます。十字架を負い、自分に死に、キリストの愛に生きていく、と言うキリスト者の信仰生活の根本が、まさに身近な「妻の話を聞く」と言うことの中にあるのです。

2. 確認コーナー

(1) 第1章に関する質問

- ① 男性が受ける5つの誘惑のうち、あなたは今どのような誘惑に直面しているでしょうか。
- ② あなたは、信頼してそのことを分かち合える人あるいは交わりがありますか。
- ③ 自分が受けている誘惑を分かち合えないとしたら、何が妨げとなっているのでしょうか。

(2) 第2章、第3章に関する質問

- ① この本を読んで、「妻の話をじっくり聞く」という著者の主張に、どのような感想を持ちましたか。

- ② あなたは、じっと向き合って妻の話を聞いていますか。
- ③ 妻の話を聞くために、具体的にどのようにすればよいでしょうか。
- ④ 著者は、妻の話を聞くことが、十字架の愛の実践であることを説いていますが、そのことに、喜びを感じたことはあるでしょうか。

3. あかしをしよう！

- ① あなたが、妻の話をじっくり聞いたとき、あなたの妻に起こった変化についてお互いにあかししましょう。
- ② 妻の話をじっくり聞くとき、どのような態度が良かったのか、お互いに分かち合いましょう。
- ③ 妻の話をじっくり聞いたとき、あなたの心に起こった変化について、分かち合いましょう。ぜひ、ほかのクリスチャンの友人やノンクリスチャンの友人に妻の話をじっくり聞くことの素晴らしさをあかししていきましょう。